

＜フィルムの映写と取扱いに関する主催者へのお願い＞

主催者及び映写技師の方は下記の注意事項をお読みいただくとともに、上映後に添付書類①～③(事故発生時は併せて添付書類④)の用紙に記入漏れがないかご確認いただきますようお願いします。

※近年、映写事故によるフィルムのダメージが目立ちます。貴重なフィルムを多くの方に鑑賞していただくために、映写技師の方にはよりいっそうフィルムの取扱いに注意していただき、また主催者の方におかれましても映写技師の方と情報共有をしていただきながら、**未然に防げるトラブルは回避していただけますようご協力お願い申し上げます。**

●添付書類について

以下の①～④の書類は、映写技師に記入いただくものです。

①～④の書類はすべて巡回プリントのコンテナに貼付しております。①～④はプリントと一緒に返送してください。

①フィルム巡回先リスト …上映日に記入してください。

②フィルム取扱注意事項 ……事前に映写技師へ渡し、フィルムに手を触れる前に確認・署名していただくようお願いします。

③上映報告書／④事故報告書 ……上映日に記入してください。③④は両面印刷になっています。

●使用する映写機の状態を確認してください。

①メンテナンス状況

定期的(年一度を目安)にメンテナンスされた映写機を使用してください。

使用する映写機が常設のものであれば、施設の担当者にご確認いただき、映写技師と情報共有してください。

②作品に適した映写機材、調整

下記作品に該当する場合、使用する映写機装置の確認をしてください。

- ⑭『ニンゲン合格』(DOL-SR)
- ⑯『Shall we ダンス?』(DOL-SR)『死に花』(DOL-D)
- ⑯『ゆれる』(DOL-SR)
- ⑰『愛を乞うひと』『GO』(DOL-SR)
- ⑯『羅生門』(DOL-D)
- ⑯『風の又三郎 ガラスのマント』(DOL-ST)
- ⑯『銀河鉄道の夜』(DOL-ST)

ドルビーサウンドのプリントで、DOL-ST(ドルビーステレオ／ドルビーAタイプ)、DOL-SR(ドルビーSR)、DOL-D(ドルビーデジタル／SRD)の3種類あります。DOL-Dは、DOL-SRでも再生可能です。

アナログステレオ(DOL-ST)

複数の音がミックスされているシーンで
2本のモジュレーションが違う波形の箇所があれば、ステレオと判断できる。

デジタル(SRD)

パフォーマンスの間に、
5.1チャンネルのデジタル音声
信号を焼きついている。

⑩『どついたるねん』

ヨーロピアンビスタ作品です。必ずヨーロピアンビスタサイズで上映してください。

●トラブルのない上映を遂行するためには、映写機とフィルムの事前チェックが重要です。

①フィルムの状態

巡回上映のため、フィルムの状態が悪い場合もあります。早めに確認をし、必要な補修を行えるよう予定をたててください。

②映写機と音響機器

今プログラム作品においては、調整された映写機での映写、音の再生には問題ないことを確認しています。

ランプの光量や、アンプ・スピーカーも含めた音響機器の不具合も上映に影響しますので、映写技師や施設担当者へご確認ください。

上映会場で事前に上映チェックを行うことを推奨します。



←フィルムの安全な映写方法について動画で解説している「オンライン映写ガイド」もご活用ください。
国立映画アーカイブWebサイト <https://www.nfaj.go.jp/learn/technicalguide/>

●上映後の確認をお願いします。

上映後、映写技師にフィルムの走行など問題がなかったかどうか、確認をしてください。事故があった場合、早急に本件委託先の(株)オーエムシーへご報告ください。また映写技師が記入した「④事故報告書」を早急に国立映画アーカイブ相模原分館へ、FAXでお送りください。

＜映写事故があった場合の連絡経路＞



※事故の状況を確認するために、国立映画アーカイブから映写技師へ直接連絡する場合があります

◆国立映画アーカイブ

電話: 042-758-0128 FAX: 042-757-4449(火～金曜日) 担当: 小川・萩山

◆株式会社オーエムシー(令和7年度委託業者)※令和8年度については未定

電話: 03-6810-1073(月～金曜日) 担当: 原島・松嶋・瀧田

①「フィルム巡回先リスト」<映写技師の方へ>必ずご記入ください

作品名：

ゆれる

巡回会場

●映写状況を確認するために、国立映画アーカイブまたは委託業者より映写技師へ直接ご連絡させていただく場合もございますので、ご了承ください。

●用紙①②③をフィルムコンテナに貼付された袋の中に一緒に入れてください。

①は1枚のみ(各会場共通、各自記入ください)。②③は上映会場につき1枚ずつ記入し、ご返送ください。

- ①「フィルム巡回先リスト」
 - ②「フィルム取扱注意事項」
 - ③「上映報告書(裏面:④事故報告書)」

<主催者の方へ>フィルムを編集・試写する前に映写技師に確認、署名いただけようお渡しください。

②「フィルム取扱注意事項」◆作業前に必ずご確認・ご署名ください◆

会場名: _____

映写技師の方は、下記フィルム取扱い注意事項をお読みのうえ左欄のチェックボックスにチェックをし、最後に署名をお願いいたします。

チェック

1.下記に該当する上映作品があるか確認し、必要な準備を行ってください。

- ⑭『ニンゲン合格』(DOL-SR)
- ⑯『Shall we ダンス?』(DOL-SR)『死に花』(DOL-D)
- ⑮『ゆれる』(DOL-SR)
- ⑰『愛を乞うひと』『GO』(DOL-SR)
- ⑯『羅生門』(DOL-D)
- ⑧『風の又三郎 ガラスのマント』(DOL-ST)
- ⑨『銀河鉄道の夜』(DOL-ST)

ドルビーサウンドのプリントで、DOL-ST(ドルビーステレオ／ドルビーAタイプ)、DOL-SR(ドルビーSR)、DOL-D(ドルビーデジタル／SRD)の3種類あります。DOL-Dは、DOL-SRでも再生可能です。

アナログステレオ(DOL-ST)

複数の音がミックスされているシーンで2つのモジュレーションが違う波形の箇所があれば、ステレオと判断できる。

デジタル(SRD)

パーフォレーションの間に、5.1チャンネルのデジタル音声信号を焼きつけている。

⑩『どついたるわん』

ヨーロピアンビスタ作品です。必ずヨーロピアンビスタサイズで上映してください。

2.上映前プリントの確認

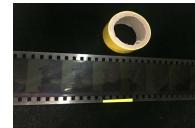
- プリントの状態(スライシング部など)は、上映前に確認してください。巡回上映のため、フレームがずれていたり、テープの処理が悪い可能性があります。
- 新たなワキシング(油)は塗布しないでください。今プログラムのプリントには必要ありません。
- 1リールにつなぐ際はテープを剥がしてつないでください。新たなスプライスを入れないでください。
- 画面を1コマも落とさないでください。止むを得ずカットしたコマは、事故報告書(上映報告書裏)に理由を記載し、カットしたコマを貼り付けて返却してください。
- フィルム表面には傷や汚れをつけないように十分注意してください。やむを得ず印をつける際は、穴あけパンチや鉛筆は使用せず、ベース面にダーマトグラフで記入してください。

<フィルムに使用できるもの>

- 仮止め用紙テープ(粘着力の弱いテープ)
- ダーマトグラフ(ベース面のみ可)
- △養生テープ(なるべく使用しない)
- △ビニールテープ(なるべく使用しない)

<フィルムに使用してはいけないもの>

- ×ボスターカラー(白マーカーなど)
- ×鉛筆(フィルム面を削る)
- ×穴あけパンチ
- ×セロテープ



ダーマトグラフ。ベース面のみ使用可。

マークが見づらいとき、ダーマトグラフの他に、黄色テープを利用する方法もあります。

3.映写機および周辺機材の確認

- 定期的(年一度を目安)にメンテナンスされた映写機を使用してください。リワインダー、プラッター等周辺機材も点検が必要です。使用映写機および周辺機材の前回メンテナンス年月を記入してください。

メンテナンス実施年月: 年 月

- Aチェーン(映写機サウンド部～プリアンプ)の調整がされているか確認してください。正常に読み取れないノイズが起きたり、音量に影響があります。
- 使用するプリアンプ～スピーカー(Bチェーン)の状態を確認してください。不具合があるとノイズが起きたり、音量に影響があります。
- 油漏れを起こしている映写機は、フィルムに付着しないよう布を敷く、または映写直前に油を拭き取ってください。
- 走行時に生じたと思われる、一巻を通してのフィルムへの焼き付き・焦げが確認されています。
- フィルムにダメージを与えない光量・アンペア出力に調整してください。

4.上映後の作業

- 編集したフィルムを元に戻す際は、画面をカットしないでください。銀テープを使用した際も画面を傷つけることなく、きれいに剥がしてください。また、フィルムをコアに巻くときに、巻末をビニールテープなどで止めているケースがまれに見受けられます。が、次の会場での映写機の破損など、大きな事故につながる可能性があります。テープ止めは絶対にしないでください。
- 上映前に②フィルム取扱注意事項(当用紙)にチェック及び署名をお願いします。
上映後は袋に同封している①巡回先リスト、③上映報告書の記入・署名を行ってください。
映写トラブルがあった場合、早急に主催者へ報告し、FAXにて④事故報告書(③上映報告書裏面)を国立映画アーカイブへ送ってください。

5.上記確認、チェック後に署名をお願いします。(必須)

年 月 日

所属会社・団体名:

映写技師名:

不明な点がございましたら、下記へご連絡ください。

◆国立映画アーカイブ相模原分館

電話: 042-758-0128 FAX: 042-757-4449(火～金曜日) 担当: 小川・萩山

◆株式会社オーエムシー(令和7年度委託業者)※令和8年度については未定

電話: 03-6810-1073(月～金曜日) 担当: 原島・松嶋・瀧田

ご記入後、フィルムコンテナ同封の用紙①③と一緒にご返送ください。

＜映写技師の方へ＞必ずご記入ください

プログラム【⑯】

③「上映報告書」

ゆれる

作品名: _____

[映写方法]

●1リール映写: 有 無 ※有の場合、上映後にリーダーを正確に接続してください。
(編集) また、新たに画面をカットしないようくれぐれもご注意ください。

[全体の印象] 気づいた点をお知らせください

[画] 傷、汚れ、コマ落ちなど	[音] ノイズなど

[フィルムの状態・走行]

見本

第1巻	第2巻
第2巻	第8巻
第3巻	第9巻
第4巻	第10巻
映写技師様にご記入いただくようお伝えください。	第11巻
第5巻	
第6巻	第12巻

[備考]

※フィルムの状態が悪い箇所、状態などお知らせください。フィルムの切断や傷が入ってしまった場合は裏面の「事故報告書」に状況を記入してください。また切断したフィルムは裏面の事故報告書に貼付して返却してください。

[映写環境]

映写機: 常設 仮設 ※どちらかに○をつけてください

映写機メーカー名／型番: _____ ランプW数: _____

前回メンテナンス日: _____ 年 月

サウンドリーダー: エキサイターランプ LED (フォワードスキャン式 リバーススキャン式)
※どちらかに○をつけてください

サウンドプリアンプ: CP50・CP55・CP65・CP500・CP650・その他プリアンプ()
(プロセッサー) ※○をつけてください

上 映 日 時: 年 月 日 時 開始
 年 月 日 時 開始

会 場 名: _____

映写技師名: _____ 所属: _____

●上映後は必ず巻き戻し、巻頭をテープで留め、袋に入れて所定の缶に戻してください。

④「事故報告書」

プログラム【⑯】

作 品 名:

ゆれる

●映写技師連絡先

* 電話：

● 捐傷箇所

* 卷数:

* 簡所：

(例) 前半

● フィルムの状態

●事故の原因 ※なるべく具体的に

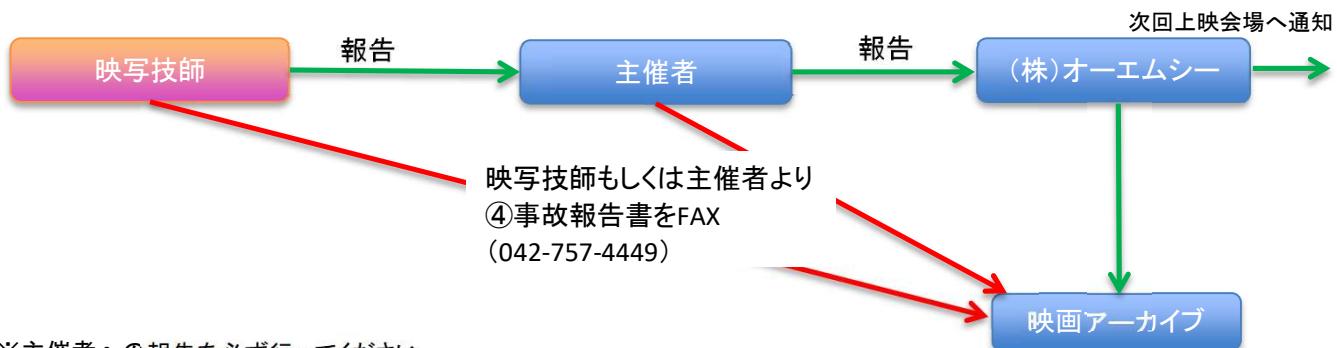
見本

※この用紙はフィルムコンテナに貼付しています。
映写技師様にご記入いただくようお伝えください。

●今後の対策 ※なるべく具体的に

●事故の状況を図や写真で詳しく説明してください。スペースが足りない場合は別紙でも構いません。切断したフィルムは空いているスペースに貼ってください。

＜映写事故があった場合の連絡経路＞



※主催者への報告を必ず行ってください。

※事故の状況を確認するために、国立映画アーカイブから映写技師へ直接連絡する場合があります。

◆国立映画アーカイブ相模原分館

電話・042-758-0128 FAX・042-757-4449(火～金曜日) 担当・小川・萩山

◆株式会社オーナー（令和7年度委託業者）※令和8年度については未定

◆株式会社「エムズ」(有限) 年度要証末音) 東京都千代田区
電話: 03-6810-1073(月~金曜日) 相当: 原島・松嶋・瀧田